

肺クリプトコッカス症の臨床像

赤木 隆紀¹⁾ 荒牧竜太郎¹⁾ 吉村 力¹⁾
松本 武格¹⁾ 原田 泰志¹⁾ 宗玄 圭司¹⁾
山本 文夫¹⁾ 白石 素公¹⁾ 久良木隆繁¹⁾
渡辺憲太郎¹⁾ 岩崎 昭憲²⁾ 白日 高歩²⁾
平野 一³⁾ 岩崎 宏⁴⁾

1) 福岡大学病院呼吸器科

2) 同 第二外科

3) 同 腎臓内科

4) 福岡大学医学部病理学

要旨：1995年から2004年までの10年間に福岡大学病院呼吸器科，第二外科および腎臓内科に入院し肺クリプトコッカス症と診断された10例の臨床的検討を行った。糖尿病やウェゲナー肉芽腫症などの基礎疾患やその治療歴がクリプトコッカス症の発症に何らかの影響があった可能性がある続発性が5例，有意な基礎疾患がない原発性が5例であった。経気管支肺生検でクリプトコッカス肉芽腫を証明できたのは3例であったが，血中クリプトコッカス抗原は8例中7例が陽性であった。肺クリプトコッカス症の画像所見は結節性陰影が多いが，臨床症状や血液検査にクリプトコッカス症に特徴的な所見がなく，肺癌や結核をはじめとする多くの鑑別すべき疾患がある。画像上結節性陰影をみた場合クリプトコッカス症を鑑別の1つとして念頭に置く必要がある。気管支鏡検査で診断できなくても血中のクリプトコッカス抗原が感度，特異度ともに優れているので外科的生検の前に試みられるべき検査である。

キーワード：肺クリプトコッカス症，胸部 CT，肺癌，基礎疾患，抗真菌薬